

今回は、関西住宅建築協会(住宅建築会議)との共催で  
ゲストのシゴト場(設計+工房)訪問を兼ねて  
公開インタビュー+意見交換形式で開催します。

ゲスト 仙入 洋/遊墨設計+遊墨工房

「建築とは、時代・場所・社会・人間・材料・風・光、  
すべての(存在)意志の統合だと思っています」

「建築家の仕事とは 人間活動=住まう を演出すること」

「生きること-表現すること」

「住むこと-建てること」

せんにゅう・ひろし

1971年東大阪市生まれ。京都大学大学院修士課程修了・建築学専攻。

東畑建築事務所勤務を経て、2002年遊墨設計設立。

<主な住宅建築>

2004 Y office「カフェと共存するオフィス」店舗併用事務所改修 鉄骨造 1階部分/2階建

2004 H clinic「自然光が溢れる医院」歯科医院改修 鉄骨造 1階部分/3階建

2003 S house「吹抜けで繋ぐ 2世帯住宅」専用住宅新築 鉄骨造 3階建

2003 K house「魚も同居する 2世帯住宅」専用住宅新築 鉄骨造 2階建

2002 U house「家相に配慮した 2世帯住宅」接骨院薬局併用住宅新築 鉄骨造 3階建

聞き手 四木 信/OWL仕事研究室

「建築家のシゴトとは何か? 住宅建築のために何ができるのか?」

「社会が建築家に求めていることは何なのか?」

「建築事務所のシゴトの“かたち”を考える」

世の中、いろんな建築士がいます。世界をまたにかけて大活躍している者、個人でひっそりと地元で根付いて活動する者、さらには耐震偽装という不名誉な事件を起こす者まで、同じ肩書きでありながらもその中身は多種多様です。

先日、某有名建築家の講演会に参加した際、「若い頃は施主の存在などほとんど考えず、自分の思うとおりに設計していた」と言い切るのを耳にして、建築士の役割って一体何だろうと改めて感じてしまいました。同じ建築士でも考え方は各人で異なり、割分擔があつて当然だと思います。従つて、受け入れてくれる依頼主がいるのであれば上述のような考え方があつても良いとは思いますが、果たして「自分はどんな建築士を目指すのか?」と考えたとき、少なくとも、そのような考え方だけではできないことはわかります。

では一体、一建築士として、「自分は何ができるのか?」「何がしたいのか?」。そうした想いが喫茶や勉強会という諸活動に表れていると思うのですが、まだまだ試行錯誤中です。

そんな中、うちのホームページを見てその設計事務所のあり方に興味を持った方(OWL仕事研究会主催者)から連絡があり、うちの事務所で「公開インタビュー」を行うことになりました。私のような経験の浅い者が「建築家(士)のシゴト」について語るなど恐れ多いのですが、「可能な範囲で質問に答えるだけでよい」ということですので、謹んでお受けすることにしました。これを機に、自分の考えが少しでも整理でき、建築士の仕事が少しでも一般に知られればと考えています。

( )建築士の資格を有する者全般を「建築士」、中でも特に新しい可能性に向かって思想的・実験的に挑戦し続ける者を特に「建築家」と呼ぶことにします。

(仙入 洋/ブログ「YuMoKu REPORT」)